一般社団法人「教師の日」普及委員会

日本における「教師の日」普及における可能性の研究

調査の概要

◆課題認識

・「教師の日」を定着させるうえで 社会的認知を高め、生徒や保護者を 含めた一般社会の気運情勢が必要

◆調査研究の目的

- 感謝のセレモニー開催のニュース バリューはあるか?
- 現場の生徒や保護者、学校長の受け止め方や障害はあるか?

◆調査研究の方法

・感謝のセレモニーを開催を促し メディアの取材誘致を行う

◆調査研究校

- 私立宝仙学園理数インター中学校 高等学校
- 渋谷区立公立小学校5校 中学校1校

◆現状

- ・ 渋谷区内の全ての小学校・中学校に働きかけた 結果、計6校と宝仙学園の計7校実施、
- ・メディア吸引力のある内藤大助氏を招いた セレモニーでの露出が多かったが、感謝の セレモニーだけでも一定のメディア露出は 獲得できた。 ※詳細別紙報告書記載

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

①ポイントA

認知を高めるためにマスメディアで露出を図る ことを主眼に「教師の日」の関連のニュースを 作る必要があった

②ポイントB

インターネット上で「教師の日」で検索した際の 情報を増やす必要があった

③ポイントC

• 教育業界関係者への認知と理解も促す必要があった

◆成果

・多くのメディア露出が確保でき、認知拡大に貢献した。そのメディア露出からインターネットメディアに転載されたことで、検索結果の情報量が圧倒的に増えた。 さらに、文科省1階でのパネル展により、教育関係者への認知と理解を促した

今後の課題

- 「教師の日」の認知拡大を図るメディア露出とインターネット情報の増加施策を継続化
- 活動賛同者及び支援者の募集と連携
- ・実施に至らない現場の障壁の洗い出しと対策(学校側の辞退・保護者の反対)